



京都産業大学のシンボルは、サグタリウス(射手座)。
ギリシャ神話に登場する賢者ケイロンが
大宇宙を駆け巡る姿をかたどった星座は、
世界へ雄飛する若者への希望を表しています。

交通案内

発展した母校のキャンパスをお訪ねください
アクセスは、とても便利になっています。



JR「京都駅」または阪急「烏丸駅」から地下鉄烏丸線を利用いただくルート

- ① 地下鉄烏丸線「北大路駅」を下車、市バスで「京都産大前」下車または、京都バスで「京都産業大学前」下車。
- ② 地下鉄烏丸線「国際会館駅」を下車、京都バスで「京都産業大学前」下車。

京阪「出町柳駅」からのルート

- ① 京都バスで「京都産業大学前」下車。
- ② 叡山電鉄・鞍馬線で「二軒茶屋駅」下車、無料シャトルバスで約5分(シャトルバスは休校日連休です)。

京都産業大学

経済学部 経営学部 法学部 外国語学部 文化学部 理学部 工学部 コンピュータ理工学部 総合生命科学部

発行：京都産業大学 総務部校友担当 〒603-8555 京都市北区上賀茂本山 TEL.(075)705-1408

<http://www.kyoto-su.ac.jp/>

神山の絆

vol. 1
2012



「神山の絆」創刊に寄せて

京都産業大学 学長 藤岡 一郎

今年の干支は、壬辰(みずのえたつ)であり、同窓のみなさまにとって、世界にそして日本にとって、もちろんわが京都産業大学にとって昇り竜のごとき年であってほしいと思います。

昨年、同窓会報に就任のご挨拶を掲載させていただきましたが、就任から1年2カ月余が過ぎました。この期間に、多くの同窓のみなさまとお会いすることができました。各同窓会支部の総会や各職域の場やそれこそふっと立ち寄った飲み屋で隣り合わせた席など、どのような出会いであってもすぐにわが大学の近況と、かつて在学していた時期の思い出話で盛り上がり、そし

て京都産業大学の今後の話へと展開されていきます。こんなひと時ほどどこも安らぎ癒される時間はありません。励まされ次のステップへの活力を与えられる瞬間です。時にはその後お便りをいただき、叱咤激励を含むいろいろなアドバイスをいただきます。本当に有難いことです。12万余の同窓のみなさまの量り知れない支えと力強い励ましを感得し、オール京都産業大学の力に感謝の気持ちでいっぱいです。

この間にも混沌とした現代社会はますます激しく変化しています。特に東日本大震災、それに続く原子力発電所事故により、人々が相互に助け合うことの大切

さ、コミュニティの中での絆の再確認など、ライフスタイルの価値観が変化しつつあるように思います。豊かさの指標が物質的「量」から、生活の「質」へと変化しているようにみえます。この社会構造全体の大きな変革期を迎え、資源の乏しい我が国は、知識基盤社会、多文化社会、生涯学習社会の構築に向けて、家庭・初等教育から高等教育に至る人材育成の質の向上が不可欠とされています。生活の質を求める社会にあって、大学教育の「質」の保証は、日本標準ではなく国際標準に適合できるか否かが問われています。そのため大学に対する要請は大きく、多様になっています。このような状況の下、大学間の競争は、東日本の大震災後も熾烈であり、改革が継続するのは、全国の各大学の常態となっています。もちろん本学も例外ではなく、時代のニーズに沿った教学面の抜本的な改革は、緒に就いたばかりではありますが、改革を推進しています。改革意識をもち、改革に耐え、それに立ち向かう心身の強靭さが、教職員各自に最も必要とされている時期だと思います。

その際、現在の京都産業大学を担っている教職員が、日々の奮闘に疲れ、時に挫けそうになる時、同窓のみなさまの社会でのご活躍のニュースは教職員や在学生に、「自信」、「誇り」、「勇気」、「励まし」を与えて下さり、特に「学び」「究めて」もらいたい思いが在学生に伝わる大切な機会です。同窓のみなさまの在り様は、在学生そして教職員に、また大学の在り様は、同窓のみなさまに大きな影響を与える循環の輪となっているのを実感します。さらにこの循環の輪を大きく豊かにしたい思いを込めて発刊するのが、この「神山の絆」です。オール京都産業大学の知識・知恵・体験・工夫を出し

あって、京都産業大学の使命を果たすために共に努めてゆきたいと思います。

この半世紀の本学の歩みをみれば、大きな夢を抱きながら、多くの難題を乗り越え、これまでも新たな価値を創造し続けてきました。今年は、3年後の50年目に向けての元年であるとともに、それ以降の京都産業大学の在り様を検討するスタートの年です。ハード面では、創設期の建物は耐用年数を越え、また防災機能を備えた施設建設など喫緊の課題に直面していますが、留意すべきは大学間競争の主戦場であるソフト面の改革・改善に重点を置かざるを得ないことです。多くの課題がありますが、たとえば、特にリーマンショック以降の世界的な不況環境は、学生生活を経済的に困難にしつつあり、また学生の就職環境の悪化を招いていることは周知の通りです。人材育成を使命のひとつとする大学において、学ぶ意欲のある学生を挫折させてはならないし、優れた学生はさらに頑張ってもらいたい思いは、みんなの思いだと思います。そのような思いを持ち、本学の使命達成のために卓越したご貢献をなさった同窓のみなさまに感謝し敬意を表することは大切なことです。このように後継者を共に育成することでオール京都産業大学の構成員の循環の輪は、さらに強固に繋がっていくのだと思います。

次の半世紀への助走となるこの時期に、現代の難題に立ち向かい、社会の負託に応え、「あの京都産業大学」といわれるように、この「神山の絆」の発刊に際し、改めてオール京都産業大学の構成員のみなさまのご理解とご協力を得なければなりません。同窓のみなさまの一層のご活躍を祈念するとともに、本学の思いにご理解とご協力を衷心よりお願い申し上げます。次第です。



なによりも学生を愛した

荒木俊馬先生の熱い思いは、サギタリウスの学章に込められています。

■われらが京都産大の創設者

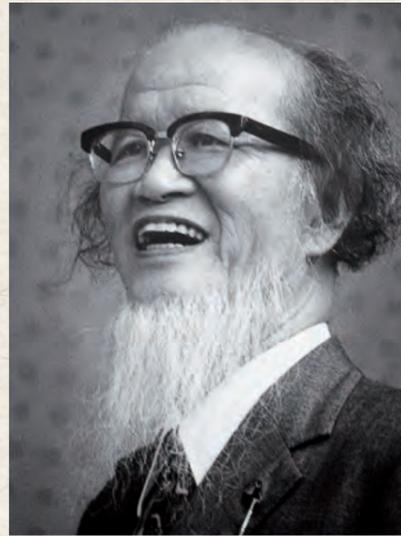
京都産業大学の創設者は、私たちが宇宙に誘う多くの著書で知られ、ドイツ留学時代にアインシュタイン博士から直々に相対性理論を教わった世界的な天文学者、荒木俊馬先生です。

■素顔の荒木先生って、どんな人だったの

先生はなによりも学生を愛し、ともに飲みともに語るのを最高の楽しみにしていました。荒木総長宅に学生が来ると、「おい、酒を持って来なさい。学生が待っているんじゃない」と言って妻の京子さんが包んだ一升瓶を下げ、嬉しくてたまらない様子でコンパに参加したということです。

■一貫して“学生のために”

宴席では優しかった先生ですが、学問に対する姿勢は、とても厳しかったとか。「学ばない学生は去れ」と入学式で訓辞したことも。しかし、どんな時にも“学生のために”という視点を最優先にすることがモットー。終始一貫して、その信念を持ち続けた人でした。



創設者 荒木俊馬 先生(1897~1978)

サギタリウスに込められた思い

入学式のたびに先生は、サギタリウス(射手座・希望の星)に託して、「建学の精神」を語ったといひます。

「諸君の学生服の襟につけたバッジはギリシャの星座で、大宇宙の空間を自由奔放に駆けめぐるギリシャ神サギタリウスの表徴です。諸君はこのバッジにふさわしい大きな夢を抱き、日本古来の道統をバックボーンとする気宇壮大な国際的人物となるように務めなさい。そして、日本国家の独立安定と日本民族の繁栄に献身すると同時に、全世界の平和と全人類の幸福のために寄与すべく、在学中、健全な身体と健全な精神を作り上げ、堅実な思想と深遠な専門知識と、豪快な実行力と、広範にして高い水準の教養を体得することに専心努力せられんことを切望します」。



教育は人間をつくるものだ

学校で学んだことが社会に出てそのまま役立つということはない。社会も学問もどんどん進化するものだから、暗記しても役に立たないことは当たり前である。だから京都産業大学の教授陣に言っているのは「成績を良くしようと努めなさんな」ということ。

大学の成績というのは、先生の教えたことをしっかり覚えたら良いのだから、成績の良いことは物覚えの良さの物差しにはなるが、立派な人になってくれるとか、創造的な研究を成し遂げるとか、そういうことは関係がない。先生はそう指摘した上で、大学教育の目標について次のように語っています。

「教育は人間をつくるものだ。根性をつくる。学問するのも、生産するのも、政治をするのも、要は人間である。だから、考える力のある人間を育てなくてはならない。それも、立派な日本人の心をもった人間」。

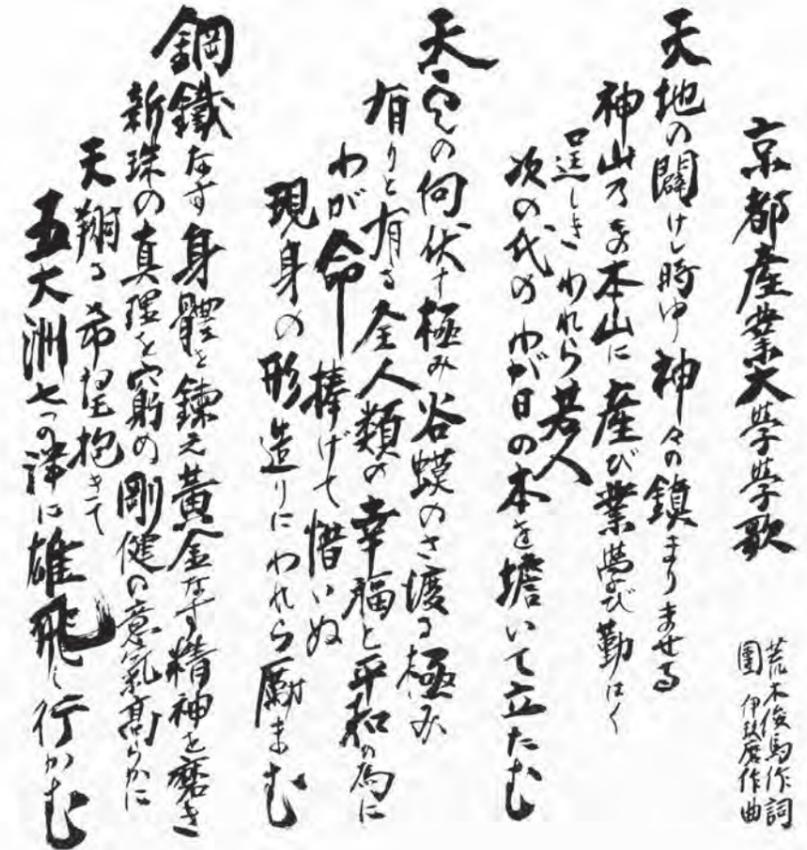
建学の精神

いかなる国家社会においても、大学は最高の研究・教育の機関である。大学の使命は、将来の社会を担って立つ人材の育成にある。

その教育の目標は、高い人格をもち、人倫の道をふみはずすことなく、社会的義務を立派に果たし得る人をつくることであり、しかもその職域が国内であろうと海外であろうと、その如何を問わず、全世界の人々から尊敬される日本人として、全人類の平和と幸福のために寄与する精神をもった人間を育成することである。

このような人間は、日本古来の美しい道徳的伝統を精神的基盤とし、東西両洋の豊かな文化教養を身につけ、絶えず変動する国内情勢に関して十分な知識をもち、その科学的分析によって正しい情勢判断のできる能力を備え、如何なる時局に当面しても、常に独自の見解を堅持し自己の信念を貫き得る人間である。

かかる学生の育成が、本学の建学の精神である。



建学の碑

2001(平成13)年1月25日建立



「建学の碑」は、創設者 荒木俊馬先生の偉業をたたえ、本学創建当時の面影を伝える本館前に、本学の設置認可された日(昭和40年1月25日)にちなんで、建立されたのである。この碑は、京都ゆかりの鞍馬石(高さ1.4メートル、幅1.8メートル、重さ2.5トン)で、薄紅色の岩肌に、荒木先生が自ら作詞し、書家でもあった先生の墨跡による、「建学の精神」を表した学歌を刻んでいる。

学部・大学院構成

京都産業大学は幅広い学問分野にアプローチする、8学部21学科と大学院9研究科で構成されています。



※理学部(応用数学科)は、昭和46年度から理学部(計算機科学科)に名称変更。
 ※理学部(数学科・物理学科・計算機科学科)は、平成15年度から理学部(数理科学科・物理科学科・コンピュータ科学科)に名称変更。
 ※理学部(コンピュータ科学科)は、コンピュータ理工学部(平成20年度)の増設に伴い募集を停止。
 ※工学部(情報通信工学科)は、コンピュータ理工学部(平成20年度)の増設に伴い、募集停止。
 ※工学部(生物工学科)は、総合生命科学部(平成22年度)の増設に伴い、募集停止。



近年開設の学部



IT社会の未来を担う エンジニア、研究者を育成。

コンピュータやブロードバンドなどのネットワークが社会や一般家庭に普及し、これまでは想像もしなかったビジネスやサービスなど、ITの応用分野が生まれています。コンピュータ理工学部では、そのようなIT社会を支え、牽引するエンジニア、研究者を育てます。学部では、新入生を一括募集し、2年次春学期まで基礎学力を徹底して指導。そのうえで学科選択を行い、学生の個性を伸ばす環境を整備しています。独自性を発揮した教育により、これまでになかった新しい取り組みに挑戦、創造できる「発想力」を育成します。

<学部の特徴>

- 1 少人数教育の実施
- 2 基礎科目で情報科学関連の徹底した基礎知識・技術を習得
- 3 演習・実験を通して応用力を育成
- 4 特別研究において自らの研究テーマに挑戦
- 5 大学院先端情報学研究科との連携

地球環境や世界的な感染症など、 今、必要とされる生命科学領域を学習。

環境汚染や感染症、食糧資源問題など、生命科学の解決力を必要とする問題が多々あります。総合生命科学部では、人を含めた動植物の生命とまわりの地球環境について、分子レベルから統合的に学び、それらの問題に対処できる力を育みます。また、一拠点総合大学の強みを活かして、国際関係や社会問題の関連知識も習得でき、専門性を深めることができます。エコや環境への配慮を掲げる企業が当たり前が存在する中、生命科学の応用力を日々の生活や企業活動に活かし、活躍できる人材を育成します。

<学部の特徴>

- 1 生命科学の最前線で活躍する研究実績ある教員が指導
- 2 生命科学の世紀といわれる21世紀に社会のニーズに応える学びを展開
- 3 豊富な実験・実習科目を設け実践を通して学ぶ
- 4 先進的な施設・設備を利用した研究
- 5 徹底した少人数教育を実現



サグタリウスNOW

series 01 神山天文台



神山天文台は、学祖・荒木俊馬博士の建学の精神を具現化した京都産業大学全体のシンボルとして、天文学の教育・研究ならびに産学協同の体制を整え、一般市民や産業界と有機的に結び付き、社会に貢献できる天文台として、平成21年12月に建物が完成し、平成22年4月より運用を開始しました。

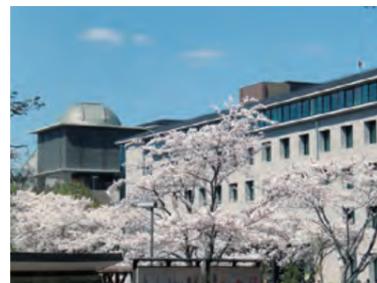
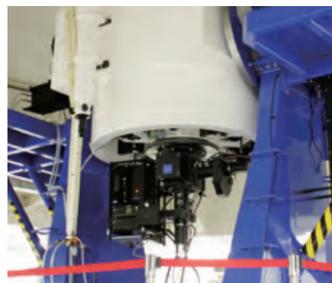
教育面では、理学部物理科学科の学生を対象に天文台の設備（望遠鏡、3D投影設備、実験室他）を用いた授業を行うとともに、共通教育科目においても全学の学生を対象として宇宙・天文に関連した教育を実施しています。また、本学附属中学校・高等学校との連携を推進し、高大連携においても天文台を有効活用した様々な体験学習を取り入れ、自然への興味や関心を高める教育にも貢献しています。

研究面では「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」として、各種の突発的天文現象を神山天文台の望遠鏡を駆使して観測し、世界に先駆けて成果を発信しており、世界トップレベルの装置開発にも成功しています。さらに天文観測装置を開発するための

環境整備を行い、電気・機械および光学関係の工作実験室・測定室を整備するとともに、コンピュータ関係の設備も整え、本格的な装置開発研究を推進しています。

また、神山天文台は教育研究施設であることに加え、地域住民の方々に宇宙に身近にふれていただくことを目的とする公開事業も開始しています。なお毎週土曜日に実施する一般公開では晴天で約100名の参加があり、特に夜間の天体観測会では、口径1.3mの望遠鏡で星空を見て、多くの方々に天体や宇宙の不思議について体感いただき、地域に開かれた天文台として好評を得ています。

これまでも、近隣の小学校・中学校・高校などの学校・教育機関を対象とした体験学習プログラムをはじめ、地域の子どもたちを対象としたサタデージャンボリーなどの各種イベントにも参加しています。この間、一般公開を含め平成22年4月からこれまでの来場者総数は7,000名を超え、社会に貢献する天文台として、一定の評価をいただくに至っています。



50th Anniversary ①

キャンパスの今昔

開学—10周年—現在

大学紛争の嵐が吹き荒れ、世情が騒然とした雰囲気醸し出していた1965（昭和40）年、創設者・荒木俊馬博士が掲げた「建学の精神」のもと、日本の将来を担い、世界に雄飛する人材の育成をめざし、他に類を見ない新しい大学として、京都産業大学は上賀茂の地に創設されました。来る2015（平成27）年の「創設50周年」に向けて、発展し続けたキャンパスの今昔を眺望ください。



開学時本館



神山祭レポート

- 第46回「神山祭」が2011年11月4日から6日までの3日間、『Echo』をテーマに開催されました。
- 神山祭期間中に本学同窓会主催の「ホームカミングデー」、11月6日には、本学主催の「第6期生の集い」が神山ホール等で行われ、数多くの卒業生が参加されました。
- 第47回の開催準備も既に進んでおり、母校を懐かしむ場として、引き続き「神山祭」にご期待をお寄せください。



第46回
テーマ

Echo

Echo(共鳴)…音波に刺激されて同一の音を発する現象
目に見えないものが同じように他のものに伝わるって素敵やん!!
さあ、楽しさを共鳴させよう!!



第1回神山祭のファイヤーストーム

第1回神山祭の実行委員会本部



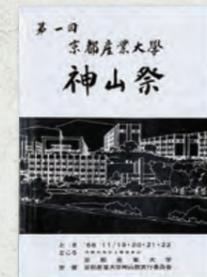
第2回神山祭



第2回神山祭の1号館横

懐かしいスナップと往年のパフレット

※「内」は各年のテーマ



第1回(1966年)パンフレット
「創造期における
我々の現実と役割」



第2回(1967年)パンフレット
「混迷する現代に
指標を求めて」



第3回(1968年)パンフレット
「見つめよう現実を
高めようその声を
未来に向かって歩み出そう」



第4回(1969年)パンフレット
「勇気ある対話の中から
新しい光を」



第5回(1970年)パンフレット
「QUO, VADIS, SANDAI
産大よ何処へ行く…?」



第6回(1971年)パンフレット
「和をめざせ
この変動のとき」



第7回(1972年)パンフレット
「しん祭」



第8回(1973年)パンフレット
「透明な光と風
忘れられたらまんの世界」



第9回(1974年)パンフレット
「沈黙に青春の叫びを」



第10回(1975年)パンフレット
「10年の語らいに
未来への創造を」

藤岡一郎教授が学長に

●藤岡一郎教授(法務研究科)が2010年10月1日、学長に就任しました。初出勤の1日には約50人の職員が出迎え、到着した藤岡学長に花束が贈呈されました。藤岡教授は7月に実施された学長選挙で選出され、任期は4年です。



平成22年度卒業式

●2011年3月19日と20日、経済・経営・法・外国語・文化・理・工の7学部の平成22年度卒業式が神山ホールで行われました。卒業式の前に、会場の参加者全員で3月11日に発生した東日本大震災の被災者に向けて黙祷を捧げました。藤岡一郎学長は「4年間の大学生活で、多くの人と出会い、価値観や教養を学び、必要なスキルを作り出すための力を獲得されたことでしょう。今後もチャレンジ精神を忘れずに頑張ってください」とメッセージを送りました。



平成23年度入学式

●2011年4月1日と2日、神山ホールにて平成23年度の入学式が行われ、全学部の学部生計3,174人が新たなスタートを切りました。2日の午後には大学院の入学式も行われました。藤岡一郎学長は「大学生活4年間では自分の「思い」や「志」をもつことが重要。それに向かって前進するのみです。自分自身もまだ知らない自分の潜在能力を最大限に引き出し、それをさらに高めていってください」と新入生を激励しました。



新理事長に柿野教授が就任

●2011年4月16日の理事会において、柿野欽吾理事(経済学部教授)が理事長に選任され、同日就任しました。初出勤の4月18日には約50人の職員が出迎え、到着した柿野新理事長に花束が贈呈されました。柿野理事長は本学教授、教務部長、経済学部長などを経て2010年10月から大学院長を務められました。



熊本市熊本近代文学館で「大宇宙の旅 荒木俊馬展」開催

●2011年7月6日から9月5日まで、本学創設者で初代学長の荒木俊馬(熊本県山鹿市出身)の業績をたどる「大宇宙の旅 荒木俊馬展」が熊本市の熊本近代文学館にて開催されました。同展では荒木総長が宇宙のなりたちを子ども向けに書いた小説『大宇宙の旅』のパネル展示のほか、著書や写真、自筆のオペラ台本などゆかりの品100点余りを展示、『大宇宙の旅』に影響を受けたという漫画家・松本零士本学客員教授の関連資料300点なども並べられました。開幕式では、藤岡一郎学長や山鹿市の中島憲正市長らがあいさつし、荒木総長の長男である荒木雄豪本学名誉教授も交えてテープカットが行われました。また同日の記念講演会では、柴孝夫副学長が「教育者・荒木俊馬」、熊本大学荒井賢三教授が「荒木俊馬の大宇宙」と題して講演を行い、会場には多くの人々が訪れました。



学旗の糸入れ式

●2011年9月8日、西陣織会館2階において、綴織(つづれおり)の技法で新しく織られる京都産業大学学旗の糸入れ式が行われました。新調される学旗は、2015年に本学が創立50周年を迎えるにあたり、西陣織工業組合のご厚意により寄贈



を受けるものです。この糸入れ式には本学の柿野欽吾理事長と藤岡一郎学長、西陣織工業組合の渡邊隆夫理事長と山崎清一郎副理事長が参加し、シャトルで緯糸(よこいと)が通されました。また同旗は綴織の第一人者、西陣織伝統工芸士・厚生労働大臣認定卓越技能者である不破恵美子氏によって制作され、その様子は西陣織会館(京都市上京区)2階「西陣工房」にて随時見学できます(午前9時～午後5時)。

平成23年度春学期卒業式・大学院学位授与式

●2011年9月24日、平成23年度春学期卒業式が神山ホールで行われ、計106人の学生が本学を巣立ちました。卒業生に対し、藤岡一郎学長は「大学はいつでもみなさんの応援団であり、いつでも帰れる母港です。晴れて船出するみなさんを心から祝福します」と熱いメッセージを送りました。また同日、大学院学位授与式も行われ、博士・法務博士・修士の学位が計6人に授与されました。



京都産業大学附属中学校・高等学校が2012年4月に壬生の新校地に移転!!

●2011年4月に発表されたとおり、京都産業大学附属中学校・高等学校が2012年4月、壬生の新校地に移転します。新校地の場所は京都市下京区中堂寺命婦町。JR嵯峨野線「丹波口駅」から徒歩4分、阪急京都線「大宮駅」から徒歩7分、バス停「京都市ササカキパーク前」から徒歩5分であり、最新の設備を整えた校舎での中高一貫教育に注目が集まっています。





「アサヒグループのトップに7月に就任。世界に目を向け、グループで文化、地域支援も続けてきた。京都の独自性について。」

アサヒグループホールディングス社長

泉谷 直木さん

「それは、どうしてでしょう。『厳しい経済状況ではユニークなことをしよう』という発想にならない。京都ブランドは強みであるとともに弱みにもなり得る。古いものに頼り、改革の動きが弱まっているのかもかもしれません。」

革新性を発揮するに

東京発ふるさと

革新性最近出てこない もっと世界に情報発信を

「何が必要でしょう。例えば、学研都市や京都リサーチパークといった入れものはできました。そうしたものを生かした京都らしい研究。既にいろいろな試みがあると思いますが、情報発信が必ずしもうまくいっていないのかもしれない。『もっと自信を持って発信先は世界です。海外で出身を聞かれ、京都とつながらう』という声がある。『オポチュニティー』を使う。日本人の言うチャンスは糊かると同時に、世界の京都です。地方経済の地盤沈下が止まりません。『地域』にお客さまの生活感、文化は違うので、私たちは地域密着型の営業活動に徹しています。仲間と一緒に飲もうとか、物事を達成した時に乾杯するとか、これがビールの良いところ。住民のみならず企業、一貫して見守ってあげないといけません。そのパツ（聞き手・勝駿子）

いずみや・なおき 京都産業大 卒。1977年、アサヒビール入社。グループ経営戦略本部長、首都圏本部本部長兼東京支社

長などを経て2010年に社長。11年7月、持ち株会社アサヒグループホールディングスに移行し、現職。63歳。

京都新聞 2011年9月20日(火)掲載

卒業生のための KСУコミュニティサイト

京都産業大学は2015年に創立50周年を迎えます。これまでの本学の目覚ましい発展は、12万人を超える卒業生の社会での活躍によって支えられてきたものであり、あらためてお礼申し上げます。今後、本学のさらなる発展には、今まで以上に卒業生のご協力なくしては考えられません。創立50周年を通過点として、より一層発展していくためにALL京都産業大学の体制をさらに強固なものにしていく必要があります。そこで今回、その一端としてコミュニティサイトを開設しました。卒業生同士の交流をますます盛んにしていくためにも、ご登録いただきますようお願い申し上げます。



登録受付中!! 本学ホームページ「卒業生の方へ」からアクセスください



このサイトでできること

- 1 卒業生のメッセージ掲載
2 掲載メッセージおよび情報の変更
3 掲載された方への本学関係者からのメッセージ受付 (Webサイトに掲載するのではなくEメールで配信します)

※関係者メッセージ受付の可否は投稿者ご本人が選択できます。
※投稿者へのメッセージ受付は本学卒業生、在学生、教職員、本学関係者に限ります。
※関係者メッセージは専用のメールアドレス(下記)で受け付けます。
ksu-cs@star.kyoto-su.ac.jp
※一旦大学で内容を確認の上、不適切なもの(セールス、誹謗、中傷など目的に沿わないもの)を除き、大学から投稿者ご本人のEメールアドレスにメッセージを配信します。

4 卒業生のメッセージ閲覧

※本サイトの内容をよりよいものにするため、メッセージの掲載にあたっては、正しい内容の情報掲載に、ご協力をお願いします。
※本サイトのご利用にあたっては、KSUコミュニティサイト規約をご確認ください。

Information

同窓会新体制が決まる

平成23年11月13日(日)京都産業大学10号館で同窓会総会及び次期の役員選挙が開催され、会長には、今井一雄氏(昭和48年法学部卒業)、副会長には、須貝茂夫氏(昭和52年経営学部卒業)、三澤純治氏(昭和46年経済学部卒業)、専務理事(事務局長)には、吉門敬二氏(昭和60年理学部卒業)、常任理事7名、理事12名、評議員30名、監事2名が選出された。役員任期は、平成23年12月1日から平成26年11月30日までの3年間です。

その後、場所を8号館に変えて、柿野欽吾理事長、藤岡一郎学長を交え盛大に懇親会が行われました。また、全国の各支部では、毎年総会、懇親会が、藤岡一郎学長はじめ大学関係者を招き盛大に開催されている。いまだ同窓会に加入されていない卒業生の出席も歓迎しております。なお、詳細は、下記までお問い合わせください。

<お問い合わせ先> 〒603-8076 京都市北区上賀茂山本町37 京都産業大学同窓会館
TEL.075-701-8407 FAX.075-701-8630 E-mail:ksu-doso@wine.ocn.ne.jp